

センター通信

編集部：北京日本学研究中心2階211室

責任編集：佐々木衛・王津

[今月号の概要：中日双方教授・客員研究員御紹介!]

教授御紹介!

氏名： 今井敬子

生年月日：1947年1月19日

血液型：A型

出身地：埼玉県

経歴：東京外国語大学中国語学科卒業、同大学院終了（中国語学専攻修士課程）。信州大学、東京水産大学（両大学では外国人留学生のための日本語教育を担当）を経て、現在は静岡大学人文学部（言語文化学科中国言語文化コース）教授。専門は中国語文法・談話文法論。

今年の目標：演劇好きなので、北京にいる四ヶ月の間に話劇を見て回りたいと思っています。詳しい方がいらしたら是非いろいろとお教え下さい。

趣味・特技：旅行、散策、美術、音楽（どちらかというと、視覚型人間です）

普段心がけていること：北京では早寝早起きを心がけ、早朝の時間をゆったりと過ごしています。日本での暮らしではたまにしかできない贅沢です。

日中関係へのメッセージ：これまで知り合った多くの中国人留学生、中国人の先生方などとの繋がり、いわば、私の個人レベルの日中関係です。中国人の知人と誤解や確

敬を重ねた経験は、まるで日中両国関係の縮図のようですし、日本社会にどうしてもなじめなかった一部分の留学生は、中国社会との決定的な違いがどこにあるかを具体的な形で見せてくれました。私の中国への関わりは、少女時代の書物の上での関心からスタートし、個人間の行き来はずいぶん後になってからのことですが、外国人の個人を知ることは、時として、書物の上での外国発見よりも更に衝撃的だと実感したことを覚えています。

国家間レベルから個人間レベルまで幾層もの「日中関係」があります。私がいささかの実績のもとに今後も実践していけるのは、私なりの個人的な日中関係だと思っています。

学生諸君に一言：日本語学専攻の学生には、日本語研究を通して、日頃無意識に使っている中国語を意識的に捉え直すことをして欲しい。外国語研究は、同時に母語・母国語の捉え直しでもあります。そして、できたらもう一つ別の言語を視野において欲しい。二つの比較では見えないけれど、三つの比較によって見えてくるものがあります。さらには、この地球上には多くの言語が優劣なく存在し、日本語も中国語もその中の一つであるということを忘れないで欲しい。

氏名： 澤井 敦

生年月日：1962年2月28日

血液型：A型

出身地：愛知県の名古屋市に生まれ、三重県の日置市で育ちました。

経歴：慶應義塾大学文学部社会学科卒、同大学院社会学研究科博士課程修了（社会学博士）、

秋田経済法科大学経済学部専任講師を経て、現在、大妻女子大学短期大学部助教授。

今年の目標：一月に埼玉の所沢から東京の東村山に引っ越し、八月には北京にやってきました。新しい環境に巻き込まれながらも、自分の生活・仕事のリズムを崩さないことが、今年の目標です。

趣味・特技：音楽。ピアノやクラシックギターを弾くこと。

普段心がけていること：他人のことを慮りながら、なおかつ、自分の心をはっきり表明すること。

日中関係へのメッセージ：最近はやった日本の流行歌の中に、若者が今おぼえたいと思っていることのベスト3が、インターネット、ダンス、中国語だという歌詞がでています。実際私の勤めている女子大でも、中国語はドイツ語やフランス語よりも遙かに人気があり、中国語の先生は、履修者が多すぎて、うれしい悲鳴を上げています。このような人気は、日本の侵略など過去の歴史に関する理解に根ざしたものはあまり思えません。しかしそれでも、日本の若者たちが隣国である中国に興味を抱い

ていることを、私は、良いことだと思っています。こうした若者たちと、中国の若者たちが、これから、今までとは異なる、新しい関係を作り上げていくことに、私は大いに期待しています。

学生諸君に一言：皆さんは将来、中国と日本という二つの国の架け橋となる、大切な人材であると思います。今は、二年生は訪日研修や修士論文の準備で、また、一年生ははじめての学習環境で、戸惑いや不安、心配事も多いかと思いますが、どうぞ大きな自信と志をもって、前進して下さい。きっと道は開けていくと思いますし、私もできる限りの応援をしたいと思っています。

氏名： 矢野 順治

生年月日： 1953年(昭和28年)7月22日

血液型： B型

出身地： 大阪府

経歴： シカゴ大学大学院博士課程終了後、名古屋大学、長崎大学を経て現在広島大学経済学部教授。

今年の目標： 痩せること

趣味・特技： 現在の趣味は太極拳の練習です

普段心がけていること： 食べ過ぎないこと

日中関係へのメッセージ： 前回(1990.9~1991.1)は、あっという間に五ヶ月が過ぎてしまいました。今回は少しでも、中国社会が「見えて」くれればと思っています。

学生諸君に一言： 「日本経済論」をとっている学生さんは、前回同様はじめで優秀なので安心しました。今回の授業では、皆さんと対話をしながら「(日本)経済の仕組み」について考えてみたいと思います。

祝你们学习顺利!

氏名： 西田 毅

生年月日：1936年4月13日

血液型：A型

出身地：大阪府

経歴：大学院を卒業後、直ちに同志社大学法学部助手に就任、講師、助教授を経て1974年教授、現在に至る。専攻は日本政治思想史。

今年の目標：私は元來、その年度の目標を立てて行動するタイプではないが、今年はとにかく、こうして北京日本学研究中心で仕事をしている以上、まずここで学生諸君の教育とセンター所属のスタッフと一緒に研究会活動をしっかり行うこと、そして中国に滞在するこの機会を利用して、できるだけ幅広く中国文化を内在的に理解できるように考えている。

日本から持参した原稿の校正や執筆の仕事もあるが、外国にいと身体は時間的余裕があって楽なのだが、精神状態が多忙というか、一種の興奮状態にあり関心対象も拡散して原稿執筆等のような仕事に集中できない。とにかく中国と中国人を少しでも深く理解するよう努めたい。

趣味・特技：古寺巡礼。北京では旧跡の歴史散策をしたり、時々琉璃廠に出かけてウインドショッピングを楽しんでいる。

普段心がけていること：取り立ててこれという指摘はできない。唯、私は常に現在に取り込んでいる仕事に全力を傾注することが必要であると自分に言い聞かせている。人はとにかく他人の眼を意識して問題の意義や価値が気になって仕事をえり好みしがちだが、何が重要であるかないかは簡単に分かるものではない。小さな仕事が大きな業績に結びつくこともあるし、あるいは、そうでないこともある。しかし、仕事というものは、何か眼に見えない大きな力になって与えられるものであり、学問や芸術上の仕事であれ、政治や実業の仕事であれ、究極的にはすべからず他者の奉仕という属性を持つものなのだと考えている。

日中関係へのメッセージ：偏見は無知から始まる以上、今後一層の日中両国の交流が必要。人と人、物と物の交流、交換を通してお互いに、両国の違いを違いとして認めあい尊重しあうことが大事だと思う。ある特定の基準に基づいて、どちらが優れているかという判断に走るのには危険であろう。歴史の長い両国の間で、伝統文化の内容の優劣を競い合ったり、況やどちらが「大国」であるかといった次元の競争意識から脱出する必要を痛感する。

学生諸君に一言：なぜ日本を研究するのかという内発的な問題意識を持って欲しい。そして大きな視野に立って特殊の研究テーマを見出すこと。日中の戦争経験と無縁な世代の諸君が我々の世代と異なった斬新なアイディアと視角で日本研究していただきたい。

氏名： 吉村 亨

生年月日：1946年6月15日生まれ。古い時代で言うところの「人生五十年」を越えてしまいました。あと、自分にはどれだけ残されているのか分からないけど、一日一日をしっかりと楽しみめながら、それでいて楽しく闊達に生きていきたい。

血液型：AB型。日本では、この血液型の人間は、少数派ゆえか、頭はいいけど少々冷たい変わった人格の持ち主のように見られます。でも、私個人に言わせれば、これは偏見というものです。決して明晰ではないし、それ以上に暖かく穏やかな性格です。だから、いわゆる血液型の話は嫌いです。

出身地：京都市下京区。いわゆる「京都生まれ」ではありますが、小学校時代に、親の仕事の関係で大阪・三重県・岐阜県を転々とし「京都育ち」ではなくなりました。従って、私の話し言葉は京都弁とも大阪弁とも多少異なっています。関西弁に興味をお持ちの方々は御注意を。

経歴：立命館大学文学部史学科（日本史）を卒業、大学院へ進学の予定でしたが事情があって断念、恩師の林屋辰三郎先生の薦めで、最初は京都の、ついで日本の茶所を代表する宇治の地域史編纂事業に従事、先史・古代から近代・現代にかけての「通史」を、地域の視点から学ぶことができました。私の研究テーマである中世都市生活史及び摂関家領・茶の社会文化史研究は、この時代に形成されたものです。編纂事業の終了後、京都学園大学の姉妹校として新設された京都文化短期大学へ転職、現在に至っておりますが、これも二年後に京都学園大学人間文化学部へ改組転換される予定です。

今年の目標：センターに赴任する直前まで、上記の改組転換に関する業務に忙殺されてきました。今年は中国にて新年を迎えます。この滞在中に、中国明代の茶の文化・生活習俗に関する文献を蒐集することと、できうことならば、こうした分野の研究者と知り合いになることが当面の大きな目標です。

趣味・特技：音楽鑑賞（クラシックからロックまで幅広く）・読書（乱読）・スポーツ（すべて。冬はスキー。若い頃は山歩き。でも今は、年齢と共に温泉の旅と化してしまいました）

普段心がけていること：優しさと自然体。

日中関係へのメッセージ：相互理解を一層深めるためには、中日双方とも、それぞれの社会認識や文化感覚・生活意識などの過去と現在を正しく知ることが大前提だと思います。幅広い学術的交流の活発な展開を強く望みます。

学生諸君に一言：学問研究に一番必要なことは、その人のスタンドポイントだと思います。もちろん、不断の努力は言うまでもないことなのですが…。学生時代に、恩師がよく私たちに言い聞かせることを思い出します。たとえば、一つの演劇が上演されるとします。その場合、この興行を成り立たせるには、俳優と、その劇の台本を書く作者とが必要ですが、忘れて成らないのは、客観の存在です。要は、三位一体の世界なのです。私自身、最近では、こうした劇が興行される「時」とか「場」という問題をも考えることに努力しています。文化の分野で日本を研究しようとする場合、ともすれば、一人の人物なりその思索軌跡が取り上げられがちですが、どうぞ総合的な視点を忘れないで下さい。

氏名： 岡野道夫

生年月日： 1937年(昭和12年)

血液型： O型(と思ったでしょう)

出身地： 東京の浅草の生まれ。いささかおっちょこちょいの祭り好き。

経歴： 日大一中、一高から大学院博士課程までずっと日大一筋。専門は中古文学、特に「源氏物語」の諸本の研究を手がけてきました。

今年の目標： とにかくセンターでの仕事をきちっとすること。北京は一昨年が続いて二度目なのですが、前のことは忘れて常に初心を心がけること。

趣味・特技： 何にでも興味を持つ(ヤジウマ根性)

普段心がけていること： 何にでも興味を持つことを心がけている

日中関係へのメッセージ： 日中(だけでなく世界各国)関係はお互いに肩肘を張らないこと。

学生に一言：「思い切り生きること」を心がけてください。

目下「太極拳」を数名の先生方と習っていますが、誰か将棋(ジャンチー)を教えてくださいませんか。

氏名： 山内洋一郎

生年月日： 1933年12月6日

血液型： B型

出身地： 愛媛県(生まれは高知県)

経歴： 広島大学大学院博士課程の後、広島文教女子大学教授を経て、奈良教育大学教授。

今年の目標： 今校正中の『金沢文庫本佛教説話集の研究』(出版助成)を完了して、漢籍起源の金言成句を収載した主に中世の文献を逐次刊行する計画を実現すること。

趣味・特技： あてなく歩き廻ること。なんでも面白い。但し、心臓がないので、のぞき廻るほどではない。若い時は、(中級の)登山、洞穴探検。

普段心がけていること： 主体性を持って、力強く行動すること(を心がけてはいますが、この逆の性格、態度であることを自覚しているので・・・)。

日中関係へのメッセージ： 中国の強大なことは、今日世界中で認めています。私の接してきた留学生(大学教員)の心底にそれがあつたこと当然でしょう。私もそれを認めつつ、相互尊敬の態度で続けてゆきたいと思つています。

学生に一言： 中国の日本語研究が現代語文法中心なのは当然ですが、そろそろ言語学的多方面の解析があつてよいと思つています。特に概論各章を漏れなく教授できる力を付

けてほしいのです。

佐々木 衛

文化人類学 山口大学人文学部

センターに赴いて、40 数日が過ぎました。96 年度の学生の修士論文の指導を引き継ぎましたが、早くも、中国人学生の日本研究を指導する難しさを体験することになりました。前もって予想し得たことなのですが、現実には直面するとこれ自体が一つの人類的経験なのだ、問題への対処の難しさも、そして問題に対する人類的関心も、改めて新たになってきました。一端をご報告して、ご参考に呈したいと思います。

引き継いだ一人の学生の研究テーマが、二転三転しました。この女子学生の日本語は同級生の中でも良くできる方です。理解力も優れており、研究テーマに関連した文献を読んで、良くまとめていました。しかし、いざ研究テーマとして問題を絞ろうとすると、どこか腑に落ちないところが残る。研究の対象にしようとしている問題を言葉で表そうとすると、何か焦点がずれてくるような気が残る、という状態でした。日本社会のことを知らないのですから、考えてみれば当たり前のことなのですが、しかし、このずれは大切な問題のように思われてきました。

まず、研究テーマの捉え方に問題があるようです。日本人の修士課程の学生に研究テーマを選ばせるとき、実証可能な具体的なテーマを選ばせます。例えば、「現代日本の地域社会の研究」などといったものは内容を何も表していないので、地域社会の集団や組織、何らかの生活の場、活動などの研究の対象、あるいは移動・流動化、開発、過疎・過密といった何らかの論点をテーマの中にもり込ませます。しかし、これは日本の学生が日本の地域社会が一体どんなものか全体を見渡せることができるから、論証可能な特定のテーマを選択できたのではないかと思えます。反対に、日本の学生が中国の地域社会の研究をテーマにしたとすると、彼らは何が中国社会の生活の基本的な枠組みなのか皆目見当がつかないところにいます。彼らに論証する価値のある課題を選ぶよう求めることに、大きな困難を感じるでしょう。どのような問題の建て方に価値があるのかわからない。まずは、きわめて基本的なところから、つまり中国社会や歴史の理解、そしてテーマに関連した先行研究の整理、だいたいこんなところで修士の課程は終わってしまうのではないのでしょうか。研究すべき価値ある課題を自分のものにすることができれば、私なんぞは学生に将来を期待してしまいます

彼らの関心は、まずは日本社会の基本的で全体的な理解を目指しているということがわかりかけてきました。これも当たり前のことなのですが、実際に経験してみないとわからなかったところです。こうした関心の持ち方は、テーマの選び方と関連しているところがあるようです。彼らのレポートは、参照箇所、引用箇所が不明確で、とにかくすべて自説

かのごとく一つの文章に有機的に結合されているところに特徴があるといわれています、これは論文の形式としてよく問題にされるのですが、しかし、一方では、一つの文章としてまとめるという中に、全体的に解釈しようとする構想が一貫しているようにも思えて、興味を持ちます。こうした視点には、個別の具体的なテーマから全体を推し量っていくという方法的な個別主義になじまない傾向があるのではないかと思います。日本の学生が、具体的な課題の論究には戸惑わないが、全体的な視点から論述することに弱いのと対照的で、思考の方法とでもいう対照差が感じられます。したがって、センターの学生にテーマを選ばせるとき、課題の個別性をまず要求すると、全体が見えない不安感を強く持ってしまうのではないかと予測しています。個別の課題にしてしまうと、大切な問題が取り落とされてしまうような齟齬感を抱くようです。

さて、いくら日本語ができて、やはり言葉は最大の問題となっています。概念でもって表現しなければならぬのはいうまでもないのですが、例えば、「道德教育」（精神文明教育）という言葉を使った場合、中国と日本では、その実体は大きく異なっています。中国では一般的な言葉も、日本の問題を扱うのにふさわしいとは限りません。日本社会を日本語で研究するとき、我々は日常語に近いところに概念を持っており、広い言葉の中から概念を選択することができますが、外国人にとってみると、概念は日常経験から最初から切り離されて、選択の余地がないものとして存在しています。「道德教育」でテーマを表現しようとした先の女子学生の場合、彼女が表現しようとした内容と意図と、これを受け取った我々の側に最初から大きな溝があったのは、さけることができなかったことのように考えられます。

中国人の彼らが日本研究を始めることの困難を列記しましたが、困難というだけであって、その反面は新しい可能性を開いてくれるものと期待しています。彼らは我々に見えていないものをみさせてくれるものと思います。彼らの初々しい姿を見ていると、15年前、私が中国研究に着手した時、茫漠とした不安に戸惑っていた私自身の姿を思い起こさせてくれます。4月初旬の夕方5時頃、受け入れ先の済南駅に降り立ちました。黄砂の強い風のなか、駅の広場には、大きな荷物を担いだ人が群れていました。長い時間そこにたたずんでいた様子で、多くの人は汚れて疲れていました。自動車が、自転車が、馬車が、人が、雑然と「無秩序」に行き交っている。この社会の秩序とはいったい何なのだ、しばらく頭の中が白く霞んでしまいました。彼らも、日本に着いた第一日目に、私が感じたのと同じような体の中に直接ぶつかってくるような印象の中に、自分の課題を発見するものと思います。今は、その時を待つための準備にすぎないのではないのでしょうか。

氏名： 朱京偉

生年月日： 1957年9月15日

血液型： B型

出身地： 北京市

経歴：北京外大日本語学部卒、同学部助手、講師を経て、助教授に至る。その間に当センターの一期生として二年間を過ごしたり、日本の同志社大学や広島大学へ留学・研修に行った経験もあったが、活動範囲は、基本的には北外大の東院と西院のあいだに限られているので、文字どおり「一所懸命」の生きかたをしているといえる。

今年目標： 日中の音楽用語の形成と借用関係についての研究を論文にまとめる。

趣味・特技： 書道、古典音楽

普段心がけていること： いい加減な仕事、研究、遊び、いずれもしないこと。

中日関係へのメッセージ： 「同」の喜びを分かち合うより、「異」の悲しみを見詰め合っている中日関係。国と国の交わりには利害が絡みやすいが、学問の分野では、利害があってはならない。一研究者にとって、地道な努力をかさね有益な成果をあげていくのは中日の文化交流に貢献するもっともよい方法だと思う。

学生に一言： 十年一昔。ちょうど十年前、私が一期生の一人としてこのセンターの大学院を出ました。センターがどうか変わったというより、入ってくる学生たちの考え方のほうが十年前と比べれば、ずいぶん違ってきたと実感しています。学問は積み重ねである。センターに入った以上、まだまだ数少ない日本研究者の仲間入りができるような努力を最大限にしましょう。

氏名： 趙 小柏

生年月日： 1954年10月31日

血液型： A型

出身地： ?市

経歴： 東北師範大学卒、東北師範大学助手、講師を経て現在北京外国語大学助教授。

今年目標： 日本古典文学教材の編集

趣味・特技： 読書、料理

普段心がけていること： 家族三人の健康管理

中日関係へのメッセージ： 牛年生まれの私は馬みたいに温厚で、学校でも家庭でもよく働きます。大学卒業後、ずっと日本語教育に専念しております。今年は去年の繰り返しのような平凡な仕事ですが、学生の成長ぶりにやりがいを感じて、できる限りの努力をしております。

学生に一言： 最近、語学教育では、その国の言葉の学習だけではなく、その言葉を生み出した文化背景に対する理解も重要視されつつあります。古典の勉強は伝統文化の理解に役立つだろうと思います。私の努力によって、少しでも、日本文化の理解を

深めていただければ、幸いです。

氏名： 金熙徳

生年月日： 1954年5月22日

血液型： A型

出身地： 延吉市

経歴： 小学校6年生の頃「文革」が起きる。数年後から工場で7年間。受験制度の回復で延辺大学に入学。修士課程は日本近代哲学史の専攻で西田哲学を研究する。延辺大学で講師、その間米国ネブラスカ州立大学に客員研究員一年。その後東京大学で研究生2年、博士後期3年、国際経済政治分野で日本外交や日中関係の勉強。1994年夏帰国、中国社会科学院日本研究所に勤める。

今年の目標： 冷戦後日本外交の研究。

趣味・特技： 特になし。

普段心がけていること： 日本から戻ったら中国語が話せなくて苦労した息子の勉強。

日中関係へのメッセージ： 中国人と日本人は、相互理解が大変不足しています。その背景となる要因は複雑で文化的なもの、歴史や体制的なもの、豊かさの違い、民族的誤解や偏見など、数多く並べられます。相互理解を深めるには、まず相手を知らねばならないと思います。

学生に一言： 日本学の勉強を通じて、中国における日本理解を促進してほしい。

氏名： 胡欣欣

生年月日： 1954年1月3日

血液型： B型

出身地： 中国北京市

経歴： 陝西省李渠人民公社（一回目の就職）・北京第二外国語学院・中国国際旅行社（二回目の就職）・中国社会科学院研究生院（世界経済科）・中国社会科学院日本研究所（この三度目の就職はちょっと長く、今年で17年目になります）。

今年の目標： プライベートなことですが、借金の60%を返すこと。

趣味：

- (1) サッカー（ちなみに好きなTeamは北京国安、AJAX、ドイツ代表、オランダ代表、イングランド、イタリア代表、Chelsea また、負けっ放しですが、中国代表も応援します）

(2) 音楽

好きな作曲家：バッハ、マーラー、ヴェルディ、ワーグナー、モーツァルト（比較的後期の作品）、シェーンベルク（比較的早期の作品）、チャイコフスキー等。

好きな指揮者（亡くなった人も含めて）：C.M.Giulini、L.Bernstein、R.Muti、C.Abbado、C.Kleiber、S.Rattle、A.Toscanini 等。

最も思い出になったコンサート：ベルリン・フィル・1988年5月5日・サントリーホール（これはカラヤンの日本での最後のコンサートでした）

最も好きな現役オペラ歌手：J.Morris、J.Norman、R.Fleming

(3) バレエ (ballet のこと)

好きな作品：ジゼル、M.ベジャールの殆どの作品

好きなダンサー：Donn、Baydee、Ananiashvili、Guillem、Malakhov、P.Dupond

(4) 旅行：自然風景と美術館、教会、墓地を見るのが好き（これから行ってみたいところはチベットとアフリカの一部）

(5) 美食、即ち、美味しいものを食べることに、たまには作ることに

特技：サッカー応援

普段心がけていること：不良債務をこれ以上増やさないこと

日中関係へのメッセージ：日本よりもロシア（旧ソ連）やイタリア、スペインといったような国々が好きな私ですが、日本には気の合う友達や最も尊敬している経済学者がおりますので、日本とは友達としてのつきあいをしていきたいと思います。

中日関係はアジアの経済発展と世界平和にとって非常に大切ですが、真の友好関係を保っていくためには、若い人達に過去の歴史について（ドイツのように）徹底的に教える必要があると思います。

学生に一言：

世界上还有三分之一的劳苦大众生活在水深火热之中，我们有责任去解救他们，任重且道远，让我们努力奋斗吧！

武寅，女，1950年生于吉林，3岁随父母到了沈阳，此后一直在辽宁长大，是个地道的东北人。血型 AB 型，人称“万能受血者”，但我最喜欢吸收有关日本的一切知识，这也同我的经历有关。我毕业于辽宁大学外语系日语专业，读硕士生时选择的方向是中日关系史，读博士生时专攻日本近现代史，特别是政治史和外交史。喜欢游泳、打乒乓球，喜欢听日本歌曲。96年底被选为中日友好 21 世纪委员会中方委员之一。我愿把毕生精力献给中日友好事业。

王晓秋

1942年生于东海之滨（上海市），1964年毕业于北京大学历史系，留校任教至今。现在为北京大学历史系教授、博士生导师、中国近代史教研室主任，兼北京大学日本研究中心委员、亚洲太平洋研究中心委员。曾有幸多次东渡扶桑（日本）、北上韩国、南下泰国、西飞美国讲学、开会和访问、研究。担任过日本庆应大学、东京大学、国际日本文化研究中心及韩国高丽大学、泰国法政大学等校客座教授或访问研究员。专业为中国近代史与中外关系史（特别是近代中日关系史和中日文化交流史）。已发表著作近十种和论文一百余篇。主要著作有：《近代中日启示录》、《近代中日文化交流史》、《近代中日关系史研究》、《中日文化交流史话》、《东亚风云》、《从鸦片战争到辛亥革命》（日文）等。近年与大庭修教授共同主编的《中日文化交流史大系·历史卷》（有日文版和中文版），荣获亚洲太平洋出版协会金奖。本人兴趣颇广，除读书做学问是最大兴趣外，也喜欢听听音乐、看看足球、打打乒乓（可惜最近患肩周炎打不了）。希望通过自己的研究和教学，促进中日两国人民的互相理解、友好关系和文化学术交流。同时希望培养北京日本学研究中心的学生们勤奋、严谨、求实、创新的学风和独立思考、分析研究的能力，努力建设有中国特色的日本学研究体系。

姓名：胡瑞昌

出生年月日：1931年2月7日

血型：O型

出生地：印度尼西亚井里汶（Indonesia Cirebon）

经历：1954年7月国立中山大学文学院语言学系毕业后分配工作到北京大学中国语言文学系。1958年四年副博士研究生毕业（因取消了学位制，故未授予学位。学位制直到改革开放后的80年代中期才恢复），为支援边疆少数民族地区的大学建设，我和其他两位分到内蒙古呼和浩特的内蒙古大学汉语言文学系中国语教研室工作。1974年7月回到北京市公共交通总公司所属的职工业余大学和“七·二一大学”、中专技术学校任教师和教务工作。1978年7月中国人民大学恢复办学，我来到了中国人民大学语言文字研究所工作直到现在。

先后给大学本科生、研究生等开设20余门课程，包括中国语学、方言学、文字学、语音学、语言学理论、逻辑、哲学、写作、鲁迅作品选讲、修辞等科目，以及硕士学位课程的专业基础课、理论课和研究方向课。担任硕士学位指导导师、研究所学术委员会委员、秘书、主任，研究所行政负责人，以及中国人民大学、中国语言文学学科分委员会副主席等职务。荣获国家有特殊贡献教授称号及国家教育委员会首届优秀研究成果奖，通讯评审委员。出版个人和合著的著作9种，发表学术论文几十篇（国际学术会议、全国学术会议及全国性语言文学专业性杂志、报刊、大学学报等刊物上发表）。参加中国汉语方言学会、中国语现代化学会、中国语言应用学会、北京市语言学会、北京市语言现代化研究会、北京市《水浒》研究会等学术团体，成为会员或理事。

今年的目标：开设“中国语学概论”课程，准备把讲稿写好，任务很难很重，尽可能把它写好。

志趣和专长：喜欢养花和旅游观光山清水秀的地方，也喜欢观光历史名胜古迹。几十年来在语言文学方面进行工作和研究，因此在这方面多少积累了一些知识——也就是所谓的专长吧。

关于中日关系：希望保持几千年来的友好往来的关系。特别是进入21世纪，中日两国要世代友好下去，要教育后代不要有侵略和战争，避免给子孙和人类带来痛苦和灾难。

写给学生们：对于青年学子、研究生们，希望它们努力学习，学好本领，将来为中日文化、经济等方面交流作出贡献，为中日友好作出贡献！为建设北京日本学研究中心作出贡献！使北京日本学研究中心成为中国研究日本学的著名中心！